

親として子供の受験にどう向かいあうのか

早期の目標設定は進路実現の近道

進路について十分な時間をかけた研究が、生徒にとって重要であることは言うまでもないことです。しかし最近では、AO・推薦入試などの影響で大学への入学決定時期の早期化や、現役志向の強まりで、進路について「じっくり考える」余裕がなくなってきています。3年次になってから「こうしたい」と思っても、早期からの準備なしでは満足のいく進路実現は厳しいものになるでしょう。進路への目標設定時期が早ければ早いほど、その達成のために有利であることは明らかです。AO・推薦入試であればなおさらのこと、一般入試よりはるかに早い時期から自分の良さや個性を見出し、それを磨いていく必要があります。その場しのぎのAO・推薦入試へのチャレンジは時間と労力の無駄であり、失敗したときのダメージがかえって大きくなります。本校のAO・推薦入試に挑戦する生徒の多くは一般入試を視野に入れながら臨んでいます。しかし、ほんの一部とはいえ一般入試の準備を疎かにして、AO・推薦入試にいつまでも振り回されていた残念な事例がありました。今後の課題ととらえています。

1年次から2年次にかけて実施する全国模試の結果から、自分の学力が目標とどれだけ開きがあるのか、それを確認しながら2年間をしっかりと費やし、その差を縮めることが進路実現には最良の方法です。しっかりとしたデータに基づけられた目標設定ならば、さらに学習計画も立てやすくがんばりも長続きします。その結果、安易にAO・推薦入試に流されることも少なくなります。全国模試の結果の正しい見方と効果的な利用法は、お子様だけでなく保護者の皆様にも進路説明会を通じて説明をしています。本校では生徒が進路目標を自分の学力に合わせるのではなく、目標に自分の学力を近づけ、最後の最後まで学力が伸びるよう徹底的にサポートします。

重石になるか、支えとなるか

「受験生の親として、どのような心構えで子どもと接すればいいのでしょうか」とよく質問されます。お子様の性格、ご家庭の環境によって状況は違います。しかし確実に言えることは「不要なヘルプではなく有効なサポート」を心がけていただければと思います。簡単なことのようにですが注意も必要です。配慮したつもりの方のお子様にとっては「重石」になる場合があります。たとえば「口出しはしないから好きなように決めていいよ」とか「お金のことは気にしないでね」など、支えになろうとしたつもりの方であっても、お子様によって受け止め方は様々です。この場合ですと「お金は出すけれどあとは知らないよ」と誤解され、冷たい親だなと感じられてしまうかもしれません。そうならないためにも、普段からお子様と十分なコミュニケーションをとっておくことが重要になります。

受験で深める親子の絆

どんな親でも子供が早く受験を終えて、気が楽になりたいと思うのは当然かもしれません。しかし辛い思いをすればするほど、それが親子の成長の糧となります。間違っても、励ます役目の皆様方が弱気になり、その気のないお子様にAO・推薦入試での受験を勧めるなど、足を引っ張ることがないようにしてください。私がAO・推薦入試を勧めない一番の理由は、これから努力してまだまだ伸びるという秋口に進路先が決定してしまうことで、その後さらに成長できる芽がばっさりと刈り取られてしまう懸念があるからです。たしかに本校にはAO・推薦入試で合格後も、4月から始まる大学生活に備えて、しっかり学力を高めようと最後の最後まで努力する生徒が決して少なくありません。しかし、勉強が苦痛で早く進路先を決めてしまいたいという理由でAO・推薦入試に臨むのならば、うまく合格したとしても後でそのつけが必ずまわってきます。

受験というのは不思議なもので、子供と同じように、親にもがんばった分だけ成長を与えてくれる力があります。さらに親子の絆を深めるいくつかのチャンスも与えてくれます。また受験は子供の心を開かせてくれます。例えば普段めったに話さない将来のことや人生のことなどを、親子で真剣に語り合える機会をもたらせてくれます。もしかしたらその時、将来のことを真剣に考えるわが子の姿に、大きな成長を感じることができるかもしれません。そうなれば「親として子供の受験を楽しむ」こともきっとできるのではないのでしょうか。このような千載一遇のチャンスを逃すのは、あまりにももったいないことだと思いませんか。すばらしい経験が辛い思いをした分だけ必ず訪れます。どうかそのチャンスを逃さないでください。